



平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年11月1日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2222 URL <http://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 平成30年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	18,347	6.6	2,151	16.3	2,157	15.4	1,327	8.4
30年3月期第2四半期	17,219	16.3	1,849	27.3	1,869	27.1	1,450	68.1

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 1,340百万円 (7.8%) 30年3月期第2四半期 1,454百万円 (72.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	42.67	
30年3月期第2四半期	46.61	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	21,983	15,716	71.5	505.04
30年3月期	22,276	15,471	69.5	497.16

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 15,716百万円 30年3月期 15,471百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		35.00	35.00
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)				35.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,600	8.6	5,800	15.7	5,850	15.9	3,820	8.1	122.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	31,121,520 株	30年3月期	31,121,520 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	1,819 株	30年3月期	1,798 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	31,119,707 株	30年3月期2Q	31,119,886 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、緩やかな景気回復基調で推移した一方で、個人消費は先行き不透明な状況が続いております。また、業種・業態を超えた競争の激化や物流コストの上昇、更に、全国各地で観測された豪雨や記録的な猛暑、大型台風の上陸や地震発生などの自然災害により、業績面においてマイナス影響を受けるなど、厳しさが増す環境下で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは、『超絶 WSR!! (※)』を2018年経営スローガンに掲げ、『超現場主義の徹底実践』を実践テーマに、お客様により一層喜んでいただける魅力溢れる商品及びサービスの提供に努めてまいりました。また、製造ライン、店舗、営業部門の現場中心の経営スタイルを一段と高め、商品力、販売力・営業力、売場力のレベルアップに引き続き注力してまいりました。更に、当面の重点施策であります「インバウンド対策の強化」、「海外展開（海外における事業モデルの構築）」、「首都圏でのWSR化展開の推進」、「プレミアム・ギフトスイーツの創造と育成」の施策遂行に対処してまいりました。店舗展開では、物販にカフェ・工房を併設したハイブリット型店舗の出店強化に取り組みました。

これらの取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は18,347百万円（前年同期比6.6%増）、営業利益は2,151百万円（前年同期比16.3%増）、経常利益は2,157百万円（前年同期比15.4%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期は、税務上の繰越欠損金にかかる繰延税金資産の追加計上により税金費用が一時的に低かったため、当第2四半期連結累計期間の税金負担が前年同期に比べて増加した結果、1,327百万円（前年同期比8.4%減）となりました。

※ WSR（ダブルエスアール）とは、グループ経営基本方針として平成27年に掲げた経営スローガン『ワールド サプライジング リゾート (World Surprising Resort) 宣言』の略称であり、商品・店舗・接客・営業活動など、あらゆるビジネスのシーンで「世界へ、ありえないほどの驚きの、非日常（超感動）を提供する」という意味が込められています。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① ケイシイシイ

ケイシイシイは、本年6月で20周年を迎えた「小樽洋菓子舗ルタオ」において、20周年記念菓「ルコッタ」の発売開始やキャンペーン展開に注力いたしました。また、本年4月にルタオ本店前にフロマージュデニッシュ専門店「デニルタオ」を、本年6月には阪急うめだ本店にチーズクリームサンド専門店「Fuwa-Trois（フワトロワ）」をそれぞれオープンするなど、新ブランド展開にも取り組みました。業績面では、8月以前は、道内店舗や国際線ターミナル免税エリアでの販売好調により堅調に推移した一方、9月は震災の影響を受け、大幅な減収・減益を余儀なくされました。その結果、売上高は5,034百万円（前年同期比1.2%減）となり、営業利益は454百万円（前年同期比8.8%減）となりました。

② シュクレイ

首都圏での多ブランド展開に注力しているシュクレイは、売上面では、「東京ミルクチーズ工場」、「ザ・メープルマニア」、「フランセ」など主力ブランドの更なる認知度向上を図るため、新規出店、リロケーション、催事・卸展開の強化などにより、好調に推移いたしました。利益面におきましても、増収効果に加え、生産効率の改善などに営業利益率は前年同期に比べ6.4ポイント増加いたしました。その結果、売上高は5,988百万円（前年同期比19.1%増）、営業利益は792百万円（前年同期比130.4%増）となりました。

③ 寿製菓・但馬寿

寿製菓・但馬寿は、グループ各社及び代理店との連携強化により、主力商品及び「サンドクッキー」などの新商品の育成に注力いたしました。売上面では、グループ全体における製造キャパシティ拡大の観点から、グループ向け製造売上の一部を他のグループ製造拠点に移管した影響により、グループ向け売上が減少いたしました。その結果、売上高は5,130百万円（前年同期比3.5%減）、営業利益は564百万円（前年同期比3.0%減）となりました。

④ 販売子会社

販売子会社は、駅、空港、SA・PAなど交通拠点チャネルを中心に、主力商品及び新商品の売場拡大、リロケーションなどの提案営業の強化に注力いたしました。新規出店では、関西地区において本年4月にコンディトライ神戸「神戸マルイ店」をオープンいたしました。その結果、売上高は2,825百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益は211百万円（前年同期比7.6%減）となりました。

⑤ 九十九島グループ

九十九島グループは、「ラングドシャ」ラインの新設によるグループ向け売上の拡大、また、新規出店では、本年6月に長崎空港内に新店舗「99スイーツアベニュー」を、東京・ららぽーと立川立飛に「Ivorish立川」をそれぞれオープンするなど、早期の業績回復に向けた取り組みに注力いたしました。その結果、売上高は1,563百万円（前年同期比5.2%減）、営業損失は102百万円（前年同期は営業損失104百万円）となりました。

⑥ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれており、売上高は108百万円（前年同期比37.9%減）となり、営業損失は101百万円（前年同期は営業損失30百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、21,983百万円となり、前連結会計年度末に比べ293百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少（817百万円）、受取手形及び売掛金の減少（417百万円）、流動資産におけるその他の増加（204百万円）、機械装置及び運搬具（純額）の増加（256百万円）、建物及び構築物（純額）の増加（147百万円）などの要因によるものです。

負債は6,267百万円となり、前連結会計年度末に比べ538百万円減少いたしました。主な要因は、未払金の減少（303百万円）、長期借入金の減少（132百万円）などの要因によるものです。

純資産は15,716百万円となり、前連結会計年度末に比べ245百万円増加いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加（1,327百万円）、配当金の支払いによる減少（1,089百万円）などの要因によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.0ポイント増加の71.5%となり、1株当たり純資産は505円04銭となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）残高は、前連結会計年度末に比べ817百万円減少し、3,930百万円（前年同期比32.4%増）となりました。

当第2四半期連結結果計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1,746百万円（前年同期比81.9%増）となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益2,107百万円、減価償却費558百万円の計上及び売上債権の増加額417百万円などの増加要因があった一方、法人税等の支払額797百万円、その他の減少額390百万円、たな卸資産の増加額257百万円などの減少要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、1,334百万円（前年同期比121.0%増）となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出1,237百万円、無形固定資産の取得による支出60百万円などの減少要因によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,230百万円（前年同期比30.9%増）となりました。

主な要因は配当金の支払額1,089百万円、長期借入金の返済額140百万円などの減少要因によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、本資料発表日現在におきましては、公表数値（平成30年5月14日付「平成30年3月期決算短信」）からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,748,855	3,930,980
受取手形及び売掛金	4,130,407	3,712,992
商品及び製品	1,242,443	1,442,473
仕掛品	50,847	65,517
原材料及び貯蔵品	487,416	493,169
その他	269,810	474,614
貸倒引当金	△4,797	△761
流動資産合計	10,924,981	10,118,984
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,832,521	3,980,039
機械装置及び運搬具(純額)	2,141,289	2,397,298
工具、器具及び備品(純額)	388,399	426,480
土地	2,857,139	2,857,139
リース資産(純額)	5,243	3,942
建設仮勘定	90,552	107,993
有形固定資産合計	9,315,143	9,772,891
無形固定資産	113,800	156,567
投資その他の資産		
その他	1,934,295	1,945,431
貸倒引当金	△11,330	△10,081
投資その他の資産合計	1,922,965	1,935,350
固定資産合計	11,351,908	11,864,808
資産合計	22,276,889	21,983,792
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,199,279	1,116,709
1年内返済予定の長期借入金	260,396	252,729
未払金	1,165,732	862,162
未払法人税等	804,794	787,533
賞与引当金	709,200	796,258
ポイント引当金	13,879	10,698
その他	754,259	619,772
流動負債合計	4,907,539	4,445,861
固定負債		
長期借入金	432,746	300,215
退職給付に係る負債	1,284,195	1,342,119
その他	180,870	178,961
固定負債合計	1,897,811	1,821,295
負債合計	6,805,350	6,267,156

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	12,917,154	13,155,809
自己株式	△1,758	△1,866
株主資本合計	15,456,357	15,694,904
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36,459	41,586
為替換算調整勘定	△6,698	△6,671
退職給付に係る調整累計額	△14,579	△13,183
その他の包括利益累計額合計	15,182	21,732
純資産合計	15,471,539	15,716,636
負債純資産合計	22,276,889	21,983,792

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	17,219,107	18,347,982
売上原価	7,644,547	7,931,939
売上総利益	9,574,560	10,416,043
販売費及び一般管理費	7,725,305	8,264,961
営業利益	1,849,255	2,151,082
営業外収益		
受取利息	560	474
受取配当金	2,543	3,455
受取地代家賃	9,505	9,355
その他	22,351	14,463
営業外収益合計	34,959	27,747
営業外費用		
支払利息	2,646	1,545
持分法による投資損失	5,760	10,072
その他	6,241	9,957
営業外費用合計	14,647	21,574
経常利益	1,869,567	2,157,255
特別利益		
固定資産売却益	75,463	659
特別利益合計	75,463	659
特別損失		
固定資産除却損	6,007	12,662
災害による損失	—	37,543
特別損失合計	6,007	50,205
税金等調整前四半期純利益	1,939,023	2,107,709
法人税等	488,631	779,864
四半期純利益	1,450,392	1,327,845
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,450,392	1,327,845

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
四半期純利益	1,450,392	1,327,845
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,799	5,127
為替換算調整勘定	△316	△392
退職給付に係る調整額	△364	1,396
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,171	419
その他の包括利益合計	3,948	6,550
四半期包括利益	1,454,340	1,334,395
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,454,340	1,334,395

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,939,023	2,107,709
減価償却費	477,209	558,007
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△422	△8,624
賞与引当金の増減額(△は減少)	97,672	87,058
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	57,375	57,924
受取利息及び受取配当金	△3,103	△3,929
支払利息	2,646	1,545
持分法による投資損益(△は益)	5,760	10,072
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△2,049	△3,179
固定資産売却損益(△は益)	△75,463	△659
固定資産除却損	6,007	12,662
災害損失	—	37,543
売上債権の増減額(△は増加)	38,762	417,602
たな卸資産の増減額(△は増加)	△267,874	△257,922
仕入債務の増減額(△は減少)	△66,119	△83,920
その他	△440,540	△390,522
小計	1,768,884	2,541,367
利息及び配当金の受取額	3,103	3,929
利息の支払額	△2,646	△1,472
法人税等の支払額	△808,867	△797,125
営業活動によるキャッシュ・フロー	960,474	1,746,699
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の売却による収入	13	—
有形固定資産の取得による支出	△833,185	△1,237,995
有形固定資産の売却による収入	303,781	11,045
無形固定資産の取得による支出	△18,292	△60,288
敷金及び保証金の差入による支出	△27,516	△20,312
敷金及び保証金の回収による収入	5,758	25,040
その他	△34,235	△51,866
投資活動によるキャッシュ・フロー	△603,676	△1,334,376
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△152,865	△140,198
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,856	△1,301
自己株式の取得による支出	△31	△108
配当金の支払額	△777,997	△1,089,190
その他	△7,500	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△940,249	△1,230,797
現金及び現金同等物に係る換算差額	279	599
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△583,172	△817,875
現金及び現金同等物の期首残高	3,551,463	4,748,855
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,968,291	3,930,980

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前当期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	ケイシイシイ	シュクレイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	4,622,456	4,994,875	3,224,032	2,742,773	1,459,658	17,043,794
セグメント間の内部売上高又は振替高	473,619	34,471	2,095,292	15,636	189,042	2,808,060
計	5,096,075	5,029,346	5,319,324	2,758,409	1,648,700	19,851,854
セグメント利益(△は損失)	498,812	343,833	581,576	228,460	△104,858	1,547,823

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	175,313	17,219,107	—	17,219,107
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	2,808,060	△2,808,060	—
計	175,313	20,027,167	△2,808,060	17,219,107
セグメント利益(△は損失)	△30,505	1,517,318	331,937	1,849,255

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。
2. セグメント利益(△は損失)の調整額331,937千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額614,562千円、セグメント間取引消去額14,517千円、たな卸資産の調整額15,429千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△312,571千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	ケイシイシイ	シュクレイ	寿製菓・但馬寿	販売子会社	九十九島グループ	計
売上高						
外部顧客への売上高	4,772,917	5,940,007	3,487,927	2,816,080	1,222,094	18,239,025
セグメント間の内部 売上高又は振替高	261,280	48,063	1,643,016	9,043	341,661	2,303,063
計	5,034,197	5,988,070	5,130,943	2,825,123	1,563,755	20,542,088
セグメント利益 (△は損失)	454,986	792,056	564,284	211,172	△102,283	1,920,215

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	108,957	18,347,982		18,347,982
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2,303,063	△2,303,063	—
計	108,957	20,651,045	△2,303,063	18,347,982
セグメント利益 (△は損失)	△101,522	1,818,693	332,389	2,151,082

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額332,389千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額633,549千円、セグメント間取引消去額13,081千円、たな卸資産の調整額1,050千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△315,291千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。